

第4学年 単元の目標と評価の具体例

4 年上巻

◎ 算数のとびら（算数の学習の進め方）					
目 標				指導時数・時期	
○ 10 や 100 を単位とする数の除法について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して相対的な見方にもとづく除法についての理解を深めるとともに、学びを深めよう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。				1 時間 2 学期制：4 月上旬 3 学期制：4 月上旬	
評 価					
(知) ・算数の学習を進める手順を知り、図、式、ことばなどを用いて考えたり、説明したり、話しあったりすることのよさを理解している。 (思) ・図、式、ことばなどを関連づけて考えたり、わかりやすく筋道立てて説明したりしている。 (態) ・自らが主体となる学習の進め方に関心を持ち、話しあい活動や発表に進んで取り組んでいる。 ・学習を進める手順や話し合いの仕方などをふり返り、これからの学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	1	4～9	○10 や 100 を単位にした1位数わり算の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話しあいのやり方など算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	・学習の進め方 ・10 や 100 を単位にしたわり算 ・ノートのかき方 ・数学的な見方・考え方	(思判表) 120÷3 や 600÷3 の計算の仕方を考えたり、ことばや図などを用いてわかりやすく順序立てて説明したりしている。《発言・観察》 (知技)10 や 100 を単位にしたわり算の計算ができる。《観察・ノート》 (態度)学習を進める手順や話しあいの仕方などをふり返り、これからの学習にいかそうとしている。《観察・ノート》

1 一億をこえる数					
目 標				指導時数・時期	
○ 億や兆で表される大きな数について、既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8 時間 2 学期制：4 月上旬～4 月中旬 3 学期制：4 月上旬～4 月中旬	
評 価					
(知) ・億、兆の単位について知り、十進位取り記数法について深く理解することができる。 (思) ・位の仕組みや数の相対的な大きさに着目し、整数の表し方、10 倍や 100 倍、10 や 100 でわったときの仕組みなどを統合的に捉えたり、大きな数の加減計算や乗法の筆算の仕方を考えたりしている。 (態) ・億や兆で表される大きな数とその仕組みに進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法や数の相対的な見方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	142	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「一万をこえる数」	
(課題設定)	1	10	○人口を表す数字から、一億をこえる大きな数について調べていこうという単元の課題をつかむ。 ○十億の位までの数について、よみ方、かき方、仕組みを理解する。	・世界の人口での一億をこえる大きな数の仕組みへの動機づけ ・一億をこえる数の仕組み、かき方 《一億の位》	(態度)既習の一億までの数の表し方をもとに、一億をこえる数の表し方について考えようとしている。《観察・発言》 (知技)十億の位までの数のよみ方やかき方を理解している。《観察・ノート》
① 大きな数の位		10～12			
	2	13～14	○数の仕組みについて理解を深め、一兆をこえる数について知る。	・一兆をこえる数の仕組み、かき方 《一兆、一兆の位》 ・数の区切り方	(思判表)万の位の仕組みと、億や兆の位の仕組みが同じであることに気づいている。《観察・発言》 (知技)4 桁ごとに「万」「億」「兆」と区切って大きな数をよむことができる。《発言・ノート》
	3	15	○数の加法的な見方や相対的な見方から数を多面的にとらえる。 ○一億をこえる数の数系列を理解する。	・大きな数の数構成	(思判表)数の加法的な見方や相対的な見方を働かせて、数を多面的にとらえている。《観察・発言》 (知技)数直線上の大きな数をよむことができる。《ノート》
	4	16～17	○整数を 10 倍や 100 倍したり、10 や 100 でわったりしたときの仕組みを考えることができる。	・「10 倍する」「10 でわる」ことと位の関係（整数） ・1 億の 1 万倍が 1 兆であること	(思判表)位に着目して、10 倍、100 倍したときや、10、100 でわったときの数がどうなるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)10000 倍すると、万が億、億が兆になることに気づき、学習にいかそうとしている。《観察》
	5	18	○どんな整数も 0 から 9 までの数字を使って表すことができることを理解する。	・大きな数の仕組み（十進位取り記数法）	(思判表)どんな整数も 0 から 9 までの数字で表されていることに気づいている。《発言・観察》 (知技)条件に合う大きな数をつくることができる。《ノート》

② 大きな数の計算	6	19	○数の相対的な大きさの見方をもとに、億や兆の位までの数の加法・減法ができる。 ○百×百=1万、1万×1万=1億であることを使って、大きな数の乗法ができる。	・相対的な数の加減 《和、差》 ・相対的な数の乗法、末尾に0のある計算、100×100=1万、万×万=億 《積》	(思判表)数のまとまりに着目して、計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)手際よく大きな数の計算をすることができる。《観察・ノート》
	7	20	○既習の×(2位数)の筆算の仕方をもとにして、(3位数)×(3位数)を筆算で計算することができる。	・(3桁)×(3桁)の筆算	(知技)(3位数)×(3位数)の筆算の仕方を理解している。《ノート》
学びのまとめ	8	21～22	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 2 折れ線グラフ

目 標			指導時数・時期		
○身のまわりの事象について、折れ線グラフを用いたデータの整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。			7時間 2学期制：4月下旬～5月上旬 3学期制：4月下旬～5月上旬		
評 価					
(知)・身のまわりの事象について、データの変化を表すには折れ線グラフを用いるとよいことを理解し、折れ線グラフをよんだりつくったりすることができる。					
(思)・目的に応じて、折れ線グラフの目盛りのつけ方を適切に判断したり、折れ線グラフから事象の特徴をよみとったりしている。					
(態)・身のまわりの事象の変化を折れ線グラフに表すことに進んで関わり、ふり返りを通してグラフを目的にあわせて選択したり工夫したりすることの必要性やそのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	142	○既習事項の理解を確認する。	・3年「表とグラフ」	
(課題設定)	1	23	○気温の変化の表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・1日の気温変化の考察における折れ線グラフの活用と動機づけ	(態度)棒グラフと比較して、折れ線グラフの特徴をとらえようとしている。《発言・観察》
① 変わり方を表すグラフ		24	○折れ線グラフの意味を理解し、よむことができる。	・折れ線グラフの目盛りのよみ方 《折れ線グラフ》	(知技)折れ線グラフの点を横軸・縦軸の目盛りからよむことができる。《発言・ノート》
	2	25～27	○折れ線グラフの線の傾きから変化の様子がよみとれることを理解する。	・グラフの傾きから変化の様子とその大きさをよみとること ・棒グラフと折れ線グラフの特徴	(思判表)線の傾きに着目して、変化の様子を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)線の傾きから、変化の上下や大きさをとらえることができる。《発言・ノート》
② 折れ線グラフのかき方	3	28～29	○折れ線グラフをかくことができる。	・折れ線グラフのかき方	(知技)表から折れ線グラフをつくることことができる。《観察・ノート》
	4	30～31	○変化の様子がわかりやすくなるように、一部を省略する波線を使って折れ線グラフをかくことができる。	・目盛りの工夫と波線の使い方 ・算数探しの活動	(思判表)変化の様子がわかりやすくなるように目盛りの大きさを考えて、折れ線グラフをつくっている。《観察・ノート》 (態度)折れ線グラフのよさに気づき、身のまわりでどんな折れ線グラフが使われているかを進んで見つけようとしている。《観察》
③ 2つのグラフをくらべて	5	32～33	○2つの折れ線グラフを1つのグラフにまとめて表すことができる。	・2つの折れ線グラフ	(思判表)1目盛りの大きさをそろえることにより、1つのグラフにまとめようとしている。《観察・ノート》
	6	34	○折れ線グラフや棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。	・折れ線グラフと棒グラフが重なったグラフのよみ方	(思判表)2つのグラフを関連づけて、どんなことがわかるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)目的に応じて折れ線グラフを工夫することのよさに気づいている。《観察・発言》
学びのまとめ	7	35	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 3 1けたでわるわり算の筆算

目 標			指導時数・時期
○1桁でわるわり算の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2、3位数)÷(1位数)の筆算や簡単な(2位数)÷(1位数)の暗算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			9時間 2学期制：5月上旬～5月下旬 3学期制：5月上旬～5月下旬
評 価			
(知)・(2、3位数)÷(1位数)の筆算の仕方や(わられる数)=(わる数)×(商)+(余り)の関係を理解し、計算したり答えを確認したりすることができる。			
(思)・既習のわり算の計算の仕方をもとに、(2、3位数)÷(1位数)の計算の仕方を考えている。			
(態)・1位数でわるわり算に進んで関わり、ふり返りを通してわり算の筆算の仕方のよさや答えを確認することの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。			

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	142	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「わり算」「あまりのあるわり算」	
(課題設定)	1	36	○(2位数)÷(1位数)の立式をし、具体物を使ってその計算の仕方を考える。	・(2桁)÷(1桁)で商が2桁になるわり算の計算の仕方への動機づけ	(思判表)72÷3の計算の仕方を10の束や1を使って考えたり説明したりしている。《発言・観察》
①(2けた)÷(1けた)の筆算		37	○わり算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	・色紙72枚を3人で分ける具体的操作 《商》 ・余りのないわり算の答えの確かめ	
	2	38～39	○具体物を使った計算の仕方をもとに、(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考える。	・72÷3の筆算の仕方	(態度)加減や乗法のように筆算で計算ができないかを、具体物の操作をもとに考えようとしている。《観察・ノート》 (知技)(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	3	40	○余りのある(2位数)÷(1位数)を筆算で計算することができる。	・(2桁)÷(1桁)で商が2桁になる筆算(余りあり) ・余りのあるわり算の筆算の答えの確かめ方(除数)×(商)+(余り)=(被除数)	(思判表)余りのある(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)余りのある(2位数)÷(1位数)を筆算で計算したり、その答えを確かめたりすることができる。《ノート》
	4	41	○(2位数)÷(1位数)で、位ごとにわり切れる場合や商の一の位に0が立つ場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(2桁)÷(1桁)で商が2桁になる筆算(桁ごとに処理する)	(知技)十の位がわり切れる場合や商に0が立つ場合の筆算の仕方を理解している。《ノート・観察》
②(3けた)÷(1けた)の筆算	5	42	○既習の筆算の仕方をもとに、(3位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えることができる。	・(3桁)÷(1桁)で商が3桁になる筆算	(態度)(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えたり、答えを確かめたりしようとしている。《観察・ノート》
	6	43	○(3位数)÷(1位数)で、商に空位がある場合の筆算の仕方を理解することができる。	・(3桁)÷(1桁)で、商に0が立つ筆算と商が2桁になる筆算	(知技)商に空位がある場合の筆算の仕方を理解している。《ノート・観察》
●練習	7	44	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③暗算	8	45	○簡単な(2位数)÷(1位数)を暗算で計算することができる。	・(2桁)÷(1桁)で商が2桁になる暗算	(知技)簡単な(2位数)÷(1位数)を暗算で計算することができる。《観察・ノート》
学びのまとめ	9	46～47	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

\* ふく習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	48	○既習事項の確認と持続	・復習	

4 角とその大きさ

目 標						指導時数・時期
○角について、分度器を用いてその大きさを測ったり、ある大きさの角をかいたりする方法を理解し、いろいろな角の大きさやその和や差について考えたり説明したりすることを通して、角の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月上旬	
評 価						
(知)・角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、分度器の使い方や角の大きさの単位(度(°))について知り、角の大きさを測定したり、加減計算をしたりすることができる。						
(思)・角の大きさに着目して図形を考察したり、180°や360°を基準として角の大きさのはかり方やかき方を考えたりしている。						
(態)・角の大きさの測定や作図に進んで関わり、ふり返りを通して角の大きさにあわせて分度器を工夫して使うことや角の大きさも加減計算ができることよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。						
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準	
じゅんび	—	142	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「三角形」		
(課題設定)	1	49	○まるく開く扇をつくり、それを利用して回転の大きさを角の大きさととらえ、単元の課題をつかむ。	・扇づくりを通した角(回転角)への動機づけ	(態度)扇を開いているいろいろな大きさの角が作れることに興味をもち、活動に取り組んでいる。《観察・発言》	
①角の大きさのはかり方		50～51		・扇を使った角づくり ・回転角の定義、角の大きさ調べ	(知技)動的に角をつくる活動を通して、回転してできる形を角ととらえることができる。《観察・発言》	

	2	52～53	○角度の単位について知り、分度器を使って角の大きさを測定する。	・角の大きさの単位と分度器を使った角度の測定、直角=90° 《1°、度、角度》	(態度)既習の長さやかさと同様に、角の大きさについても数値化して表したり比べたりしようとしている。《観察・発言》 (知技)分度器を使って角の大きさを正しく測ることができる。《観察・発言》
	3	54～55	○辺の長さが短い場合や角の向きが反対の場合に、工夫して角の大きさを測ることができる。 ○正三角形、二等辺三角形などの角の大きさを知る。	・辺を伸ばすなどの工夫した角度の測定 ・正三角形や二等辺三角形の等角に着目した測定	(思判表)角の大きさを測るのに、辺の長さを伸ばしたり、角の向きにあわせて目盛りをよんだりしている。《観察・ノート》 (知技)正三角形の角の大きさについて理解している。《観察・発言》
	4	56～57	○1組の三角定規を組み合わせてできる角の大きさを考え、角の大きさの計算ができることを理解する。	・三角定規の角の大きさ、角の大きさの加減	(知技)三角定規の角の大きさについて理解している。《観察・発言》 (知技)三角定規を組み合わせてできる角の大きさを求めることができる。《発言・ノート》 (知技)角の大きさのたし算やひき算ができる。《ノート》
	5	58～59	○半回転や1回転の角の大きさについて理解し、180°より大きい角を工夫して測ったり、その求め方を説明したりすることができる。	・360°までの角の測り方	(態度)角の大きさも計算できることよさに気づき、学習にいかそうとしている。《観察・発言》 (思判表)180°や360°の角の大きさをもとに、180°をこえる角の大きさの測り方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
② 角のかき方	6	60	○分度器を使った角のかき方を理解し、いろいろな角をかくことができる。	・角のかき方	(知技)分度器を使って、大きさのきまった角をかくことができる。《ノート》 (思判表)180°や360°の角の大きさをもとに、180°をこえる角のかき方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
	7	61	○角のかき方を使って三角形を作図することができる。	・角のかき方を使った三角形のかき方	(思判表)三角形のかき方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
学びのまとめ	8	62	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

5 垂直・平行と四角形					
目 標					指導時数・時期
○ 2直線の位置関係について、その交わり方に着目して垂直・平行の意味を理解し、四角形を平行な辺の組の数で分類してその特徴を調べることを通して、四角形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					13時間 2学期制：6月上旬～6月下旬 3学期制：6月上旬～6月下旬
評 価					
(知) ・直線の垂直や平行の関係について理解し、ある直線と垂直や平行な直線を見ついたり作図したりすることができる。 ・平行四辺形、ひし形、台形について理解し、弁別したり性質を調べたりすることができる。 (思) ・直線の位置関係や図形の構成要素に着目し、図形の性質について考えたり、その性質をもとに図形をとらえ直したりしている。 (態) ・直線の位置関係や四角形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して垂直や平行な直線に着目することよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	143	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「三角形と四角形」	
(課題設定)	1	63	○道路の交わり方から、直線の交わり方を調べていくという単元の課題をつかむ。	・実際の道路の交わりを観察し、直線の交わり方を調べることによる動機づけ	(態度)直線の交わり方に関心を持ち、どのようなものがあるか調べようとしている。《観察・発言》
① 垂直と平行		64～65	○2直線の交わり方を調べ、垂直の意味を理解する。	・2直線の関係と垂直 《垂直》	(知技)垂直の意味を理解し、ある直線と垂直な直線を見つることができる。《観察・ノート》
	2	66～67	○2直線の交わり方を調べ、平行の意味を理解する。 ○垂直や平行な直線を身のまわりから見つけることができる。 ○平行な2直線の幅を調べ、平行についての理解を深める。	・2直線の関係と平行 《平行》 ・平行な2直線間の距離 ・同位角	(知技)平行の意味や性質を理解している。《観察・発言》 (思判表)平行な2直線の幅は一定であることに気づいている。《観察・発言》
② 垂直や平行な直線のかき方	3	68～69	○1組の三角定規を使って、垂直・平行な直線をかく。	・垂直や平行な直線のかき方	(思判表)垂直な直線も平行な直線も、直角を利用して作図することに気づいている。《発言・観察》 (知技)垂直な直線や平行な直線をかくことができる。《ノート》

	4	70	○垂直や平行な直線のかき方を使って、長方形や正方形をかくことができる。	・長方形や正方形の作図	(思判表)長方形の辺における垂直・平行の関係に着目して、長方形のかき方を考えている。《観察・ノート》 (知技)長方形や正方形を作図することができる。《ノート》
	5	71	○方眼紙上で2本の直線の垂直や平行な関係を見つけたり、かいたりする。	・方眼紙上での垂直・平行関係のよみ取りと作図	(知技)方眼を利用して、垂直や平行な直線を見つけたり、かいたりすることができる。《ノート・観察》
③四角形	6	72～73	○カードの点をつないでいろいろな四角形をつくり、辺の平行関係に着目して分類する。 ○台形と平行四辺形について知る。	・台形と平行四辺形の定義 《台形、平行四辺形》 ・台形・平行四辺形さがし	(態度)辺の平行に着目すればよいことに気づき、いろいろな四角形を仲間分けしようとしている。《観察・発言》 (知技)台形と平行四辺形について知り、弁別することができる。《観察・ノート》
	7	74	○平行四辺形の辺や角の大きさを調べ、その性質について理解する。	・平行四辺形の性質	(思判表)辺や角に着目して、平行四辺形の性質について調べたり説明したりしている。《発言・ノート》
	8	75	○平行四辺形の作図の仕方を考えることができる。	・平行四辺形の作図	(思判表)平行四辺形の定義や性質をもとに、かき方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)平行四辺形を作図することができる。《ノート》
	9	76	○ひし形について知り、辺や角の大きさを調べ、その性質やかき方について理解する。	・ひし形の定義と性質、ひし形の作図 《ひし形》	(思判表)ひし形について知り、辺の平行や角に着目して、その性質について調べたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)ひし形の性質やかき方を理解している。《発言・ノート》
	10	77	○対角線について知り、平行四辺形やひし形の対角線の交わり方を調べ、その性質を理解する。	・対角線の定義 《対角線》 ・平行四辺形やひし形の対角線の性質	(知技)対角線の意味を知り、四角形の対角線は2本あることを理解している。《ノート・観察》 (思判表)対角線に着目して、いろいろな四角形の性質について調べたり説明したりしている。《発言・ノート》
	11	78～79	○ひし形を対角線で切ったときに見える三角形について考え、図形についての理解を深める。	・四角形の三角形分割と構成による考察 ・四角形の辺や角の性質のまとめ	(知技)ひし形の定義や対角線の性質をもとに、できた三角形が二等辺三角形や直角三角形であることを理解している。《発言・ノート》
	12	80～81	○平行四辺形は平面に敷き詰めることができることを知る。 ○敷き詰め模様の中から、いろいろな形を見つけることができる。	・平行四辺形、ひし形、台形、一般の四角形の敷き詰め	(知技)平行四辺形を敷き詰めて模様をつくることができる。《観察》 (態度)平行四辺形以外の四角形も敷き詰められないかを調べようとしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	13	82～83	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

6 小 数					
目 標					指導時数・時期
○ 小数について、十進位取り記数法にもとづいて1/1000の位までの小数の表し方について理解し、大小を比べたり、たし算ひき算の仕方を考えたりすることを通してその理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9時間 2学期制：6月下旬～7月上旬 3学期制：6月下旬～7月中旬
評 価					
(知)・1/1000の位までの小数の表し方や仕組みを理解し、小数の大小比較や加減計算をすることができる。 (思)・小数が整数と同じ仕組みで表されていることに気づき、既習の整数の場合をもとに小数の加減計算の仕方を考えている。 (態)・1/1000の位までの小数とその仕組みに進んで関わり、ふり返りを通して0.01や0.1を基準とした数の相対的な見方のよさや小数と整数は同じ仕組みであることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	1	143 84	○既習事項の理解を確かめる。 ○0.1Lを単位として表せないかさの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○0.1Lを単位としたときの端数の表し方を通して、1/100の位までの小数の意味を理解する。	・3年「小数」 ・端数部分の表し方と学習の動機づけ ・1/100の位の小数の表し方	(態度)1Lから0.1Lをつくったことをもとに、0.1Lを10等分して新しい単位となる量をつくりだそうとしている。《発言・観察》 (知技)1/100の位までの小数の表し方を理解している。《ノート》
① 小数の表し方		85			

	2	86	○長さや重さなどの量の大きさを、小数を使って表すことを通して、1/1000の位までの小数の意味を理解する。	・1/1000の位の小数の表し方	(知技)1/1000の位までの小数の表し方を理解している。《ノート》
② 小数のしくみ	3	87	○1、0.1、0.01、0.001の相互の関係を調べ、1/1000の位までの小数の十進数としての仕組みをとらえる。	・1、0.1、0.01、0.001の相互の関係	(思判表)1と0.1、0.01、0.001の間の関係を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)1/1000の位までの小数の仕組みを理解している。《ノート・観察》
	4	88～89	○小数の加法的な見方や相対的な見方から1/1000の位までの小数を多面的にとらえ、整数との統合をはかる。	・小数の仕組みと相対的な見方(1/1000の位まで) 《1/100の位、1/1000の位、小数第1位、小数第2位、小数第3位》	(思判表)数の加法的な見方や相対的な見方を働かせて、数を多面的にとらえている。《観察・発言》 (知技)整数と小数の十進数としての構成を統合的に理解している。《発言・ノート》
	5	90	○小数を10倍や100倍したり、10や100でわったりしたときの仕組みを考えることができる。	・「10倍する」「10でわる」とことと位の関係(小数)	(思判表)位に着目して、10倍、100倍したときや、10、100でわったときの数がどうなるかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)小数と整数は同じ仕組みであることに気づき、学習にいかそうとしている。《発言・ノート》
	6	91	○整数のときと同じように、1/1000の位までの小数の大小関係を理解することができる。	・小数の大小比較	(思判表)整数の大小比較をもとに、小数の場合にも大きい位から比べていけばよいことに気づいている。《発言・ノート》
③ 小数のたし算・ひき算	7	92	○小数の見方や仕組みをもとにして、小数の加法や減法の計算の仕方を考えることができる。	・1/100の位までの小数の加法や減法の筆算	(思判表)数の加法的な見方や相対的な見方を働かせて、小数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)1/100の位までの小数のたし算やひき算ができる。《ノート》
	8	93	○いろいろな場合の小数の加法や減法を、筆算で計算することができる。	・0の処理など特別な場合の小数の加減計算	(知技)1/100の位までの小数のたし算やひき算で、桁数の違う場合や答えが整数になる場合の筆算ができる。《ノート》
学びのまとめ	9	94～95	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう ・小数の加法の交換法則、結合法則	(知技)、(思判表)、(態度)

### 活 見積もりを使って「公園をきれいに！」

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●見積もりを使って	1	96～97	○100や1000などのまとまりをつくって結果を見積もり、判断することができる。	・グルーピングによる見積もり	(思判表)100や1000のまとまりに着目して、見積もり方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)どのように考えればおよその合計を簡単に見積もれるのかをふり返り、生活や学習にいかそうとしている。《観察・作品》

### 活 算数の自由研究

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●算数の自由研究	1	98～99	○「ふしぎな輪」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	・算数の自由研究	(思判表)見通しをもちながら、輪のつなぎ方を考えている。《観察》 (態度)不思議な輪づくりに意欲的に取り組み、いろいろな場合を調べようとしている。《観察・作品》

### \* ふく習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	102～103	○既習事項の確認と持続	・復習	

## 7 2けたでわるわり算の筆算

目 標		指導時数・時期			
○ 2桁でわるわり算の筆算について、1桁でわるわり算をもとにその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、わり算の筆算の仕方やわり算の性質についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		11 時間 2 学期制：7月下旬～9月中旬 3 学期制：9月上旬～9月下旬			
評 価					
<p>(知) ・2 位数でわるわり算の筆算の仕方や除法に関して成り立つ性質を理解し、2 位数でわる計算をしたり工夫してわり算の計算をしたりすることができる。</p> <p>(思) ・既習のわり算の計算の仕方をもとに 2 桁でわるわり算の計算の仕方を考えたり、商の大きさや商を立てる位が正しいかどうかを判断しながら商を見当づけたりしている。</p> <p>・数のまとまりに着目し、除法に関して成り立つ性質について考えたり、それを用いて計算の工夫の仕方を考えたりしている。</p> <p>(態) ・2 位数でわるわり算に進んで関わり、ふり返りを通してわり算の筆算の仕方やわり算の性質のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。</p>					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	143	○既習事項の理解を確かめる。	・4 年「1 けたでわるわり算の筆算」	
(課題設定)	1	102	○(何十)÷(何十)の立式をして、2 桁でわるわり算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	・÷(何十)と除数が 2 桁のわり算への動機づけ	(思判表)10 を単位として、(何十)でわるわり算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
① 何十でわるわり算		103	○(何十)でわって商が 1 桁で余りのない計算ができる。	・÷(何十)で商が 1 桁になるわり算(余りなし)	(知技)(何十)でわるわり算ができる。《ノート》
	2	104～105	○(何十)でわって商が 1 桁で余りのある計算ができる。	・÷(何十)で商が 1 桁になるわり算(余りあり)、(除数)×(商)+(余り)=(被除数)	(思判表)10 を単位として、何十でわって余りのあるわり算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)わり算の答えの確かめ方を理解している。《発言・ノート》 (知技)(何十)でわって余りのあるわり算ができる。《ノート》
② 商が 1 けたになる筆算	3	106～107	○(2 位数)÷(2 位数)の立式をして、商の見当づけによる筆算の仕方を理解する。	・(2 桁)÷(2 桁)の筆算	(態度)(2 位数)でわるわり算に進んで関わり、商の見当のつけ方を身につけようとしている。《観察・ノート》 (知技)(2 位数)÷(2 位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《観察・ノート》
	4	108	○(3 位数)÷(2 位数)で、商が 1 桁になる筆算の仕方を考える。	・(3 桁)÷(2 桁)で商が 1 桁になる筆算(仮商の修正なし)	(思判表)(2 位数)÷(2 位数)の筆算の仕方をもとに、(3 位数)÷(2 位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)(3 位数)÷(2 位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《観察・ノート》
	5	109	○仮商の修正のある筆算の仕方を理解する。	・(3 桁)÷(2 桁)で商が 1 桁になる筆算(仮商の修正あり)	(思判表)見当づけた商が大きすぎることに気づき、その修正の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)仮商の修正の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《観察・ノート》
③ 商が 2 けた、3 けたになる筆算	6	110	○商が 2 桁になる(3 位数)÷(2 位数)の筆算を計算することができる。	・(3 桁)÷(2 桁)で商が 2 桁になる筆算	(知技)商が 2 桁になる(3 位数)÷(2 位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《観察・ノート》 (態度)商が 2 桁になっても同じ手順で筆算ができることに気づき、学習にいかそうとしている。《観察・ノート》
	7	111	○(3 位数)÷(2 位数)の筆算の仕方をもとに、(4 位数)÷(2、3 位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。	・(4 桁)÷(2 桁)、(4 桁)÷(3 桁)の筆算	(態度)(3 位数)÷(2 位数)の筆算の仕方をもとに、(4 位数)÷(2、3 位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《観察・ノート》 (思判表)数が大きくなって、これまでと同じ手順で筆算すればよいことに気づいている。《観察・ノート》
●練習	8	112	○学習内容を確実に身につける。	・練習	

④わり算のせいしつ	9	113	○商が等しいわり算の計算を比べ、わり算に関して成り立つ性質を理解する。	・被除数と除数の両方に同じ数を乗除しても商は変わらないという性質 《わり算のせいしつ》	(思判表)数のまとまりや関係に着目して、商が等しいわけを考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)わり算の性質を理解し、それをいかして計算を工夫することができる。《ノート》
	10	114	○わり算の性質を活用して、工夫して計算する。	・わり算の性質を使った計算の工夫	(態度)わり算の性質のよさに気づき、学習にいかそうとしている。《観察・ノート》 (思判表)わり算の性質を使った計算の工夫の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
学びのまとめ	11	115	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

8 式と計算の順じよ					
目 標					指導時数・時期
○ ( )のある式や四則の混じった式について、計算の順序を理解し、いろいろな式の意味や計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、式と計算のきまりについての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：9月中旬 3学期制：9月下旬
評 価					
(知)・四則の混合した式や( )を用いた式について理解し、正しく計算したり、四則に関して成り立つ性質を使って工夫して計算したりすることができる。					
(思)・交換法則、結合法則、分配法則を用いて計算の工夫の仕方を考えたり、式から具体的な場面や思考の筋道をよみとったりしている。					
(態)・( )を使った式とその計算に進んで関わり、ふり返りを通して場面や考え方を式に表せることや四則に関して成り立つ性質のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	143	○既習事項の理解を深める。	・2年「しきと計算」 ・2年「九九のきまり」 ・3年「式と計算」	
(課題設定)	1	116	○買い物場面を式に表すことで、単元の課題をつかむ。	・計算の順序についての動機づけ	(態度)場面に即して1つの式に表すことに進んで関わり、( )を使ったときの計算の順序を考えようとしている《観察・発言》
① いろいろな計算がまじった式		117	○( )を使って1つの式に表したり、その計算の順序を考えたりすることができる。	・( )を使った式の表し方と計算の順序	(知技)( )の中を先に計算することを理解している。《ノート》
	2	118	○四則混合の計算を1つの式に表したとき、乗除を先に計算することや乗除の( )は省いてよいことを理解する。	・四則混合式での乗除先行のきまり	(知技)四則混合の式では、乗除を先に計算することを理解している。《ノート》
	3	119	○四則混合の式から計算の順序をとらえ、正しく計算することができる。	・四則混合式の計算の順序ときまりのまとめ	(思判表)四則混合式の計算の順序を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)式と計算の順序を理解している。《ノート》
② 計算のきまり	4	120～121	○まとめて考える考えと別々に考える考えを統合して、分配法則のきまりに気づくことができる。	・分配法則を中心とした計算のきまり 《計算のきまり》	(態度)考え方に即して1つの式に表すことに進んで関わり、式や計算の違いや似ているところを見つけようとしている。《ノート・観察》 (知技)( )を使った計算のきまりを理解し、交換、結合、分配の3つの計算法則について理解している。《観察・発言》
	5	122～123	○交換、結合、分配法則などの計算のきまりを活用し、工夫して計算することができる。	・分配法則など計算のきまりを使った計算の工夫	(思判表)計算のきまりを使って計算の工夫の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)計算のきまりをいかして、工夫して計算することができる。《ノート》 (態度)数のまとまりに着目して計算のきまりを使うことのよさに気づいている。《ノート・観察》
③ 式のよみ方	6	124	○いろいろな式の表す意味を図と結びつけて考え、そう考えた理由を図を使って説明することができる。	・式のよみ方	(思判表)数や演算に着目し、式の表す意味を具体的に即して考えたり説明したりしている。《ノート・発言》



④ 計算の間の関係	7	125	○乗法と除法、加法と減法の相互関係をとりえて、計算に利用することができる。	・加法と減法の関係、乗法と除法の関係	(思判表)未知数を□として立式し、演算の関係に着目して□にあてはまる数の求め方を考えている。《観察・発言》 (知技)加法と減法、乗法と除法の関係を理解している。《ノート》
学びのまとめ	8	126～127	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 9 割合

目 標			指導時数・時期		
○ 2つの数量の関係について、整数の場合で何倍になるかという割合を用いて比較したり割合から数量を求めたりすることを通して、割合の意味とそれを用いる場面について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			5時間 2学期制：9月下旬～10月上旬 3学期制：10月上旬～10月中旬		
評 価					
(知) ・複数の事象の数量の関係を比べるときに割合を用いるとよい場合があることを理解している。 ・割合、比べる量、もとにする量を求めることができる。					
(思) ・日常の事象における数量の關係に着目し、割合を用いて比べたり、割合、比べる量、もとにする量の求め方を考えたりしている。					
(態) ・割合の学習に進んで関わり、ふり返りを通して数量の関係を割合で表すことや何倍になるかをまとめて考えることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	143	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「何倍でしょう」	
① 倍の見方	1	128	○動物の成長度合いを考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・2つの数量関係を比べる際に、割合を利用することの動機づけ	(態度)2つの事象の数量の関係を比べることに進んで関わり、何倍かに着目して考えようとしている。《観察・ノート》 (知技)割合について知り、割合を使って数量の比較ができることを理解している。《発言・ノート》
		129～130	○ある2つの数量の関係を別の2つの数量の関係を比べる場合に、割合を用いる場合があることを知る。	・2つの数量の割合の比較、割合の定義 《割合》	
	2	131	○何倍かの関係にある2量のうちの一方がわからない場面で、比べる量を求めることができる。	・割合の第2用法にあたる倍の計算	(思判表)数量の関係を図に表して、比べる量の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
② 何倍になるかを考えて	4	134	○ $\square \times a \times b = c$ の場面で、順に考えて解く方法と、何倍になるかに着目してまとめて考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。	・ $\square \times a \times b = c$ で $\square$ を求めるのに、順に考えたりまとめて考えたりする	(思判表)「 $\square$ のa倍のb倍がc」という数量の関係を図に表すことを通して、「 $\square$ の(a×b)倍がc」という関係に気づいている。《発言・ノート》
			5	135	

## ● そろばん

目 標			指導時数・時期		
○ そろばんについて、そろばんを用いた小数や大きな数の表し方を理解し、その加減の計算を通して、そろばんの構造やよさに気づくとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			1時間 2学期制：10月中旬 3学期制：10月中旬		
評 価					
(知) ・そろばんによる小数や大きな数の表し方、加法および減法の計算の仕方を知り、そろばんを用いて小数や大きな数の簡単な計算ができる。					
(思) ・整数の加法及び減法をもとに、そろばんを使っての小数の加法及び減法の計算の仕方を考えている。					
(態) ・そろばんの学習に進んで関わり、ふり返りを通してそろばんと十進数の仕組みが関連していることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
○そろばん	1	136～137	○第3学年で学習した整数の加減のそろばんの計算処理をもとに、小数の加減や大きな数の計算をする。	・そろばん ・そろばんとおつり	(態度)そろばんと十進数の仕組みが関連していることに気づいている。《観察》 (思判表)整数の場合をもとに、そろばんを使っての小数の加減計算の仕方を考えている。《観察・発言》 (知技)そろばんを用いて小数や大きな数の加減計算ができる。《観察》

\* ふく習

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	138～140	○既習事項の確認と持続	・復習	

★ 学びのサポート

ページ	学習内容	指導時数
142～143	・じゅんぴ	
144～155	・もつと練習	
158～159	・学びをつなげよう	

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 10 面積

10 面積					
目 標				指導時数・時期	
○ 長方形や正方形の面積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、面積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				10 時間 2 学期制：10 月中旬～10 月下旬 3 学期制：10 月中旬～10 月下旬	
評 価					
(知) ・面積の単位についてや長方形や正方形の面積の公式について理解し、長方形や正方形の面積を求めることができる。					
(思) ・図形を構成する要素に着目して正方形および長方形の面積の求め方を考えたり、長さの単位をもとに面積の単位の関係を調べたりしている。					
(態) ・長方形や正方形の面積を求める活動に進んで取り組み、ふり返りを通して面積の求め方や公式のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	116	○既習事項の理解を確かめる。	・1 年「大きさを比べ」 ・2、3 年「長さ」	
(課題設定)	1	2	○花壇の広さ比べを通して、面積の表し方や求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。	・花壇の広さ比べによる面積に対する動機づけ ・広さを数値で表すことへの導入 《面積》	(思判表)重ねたりしますの数を数えたりして、広さの比べ方を考えている。《観察・発言》 (態度)面積について知り、ますを単位にすることで数値化できることに気づき、活用しようとしている。《観察・発言》
①面積		3			
	2	4～5	○面積の単位 $\text{cm}^2$ について知り、 $\text{cm}^2$ を使って面積を表すことができる。 ○ $1\text{cm}^2$ を単位にして、いろいろな形の面積を求めたり、 $4\text{cm}^2$ の面積を方眼紙上でつくったりする。	・面積の概念、 $1\text{cm}^2$ の量感 《平方センチメートル( $\text{cm}^2$ )、 $1\text{cm}^2$ 》	(思判表)単位正方形の何個分かに着目して、面積の表し方を考えている。《発言・観察》 (知技)面積の単位 $\text{cm}^2$ の意味を理解し、それを使って面積を表すことができる。《発言・ノート》
	3	6～7	○長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考え、公式を導くことができる。	・長方形、正方形の面積の求め方と公式	(思判表)辺の長さ $1\text{cm}$ の正方形の数の関係に着目して、長方形や正方形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)公式を用いて、長方形や正方形の面積を求めることができる。《ノート》
②面積の求め方のくふう	4	8～9	○L 字型などの複合図形を分割したり、補完したりして、その面積を長方形の面積公式を使って求め、説明することができる。	・L 字型の図形の面積のいろいろな求め方	(思判表)複合図形の面積の求め方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)複合図形の求積に意欲的に取り組み、長方形や正方形の面積の公式を用いることよき気づき、いかそうとしている。《発言・観察》
③大きな面積	5	10	○面積の単位 $\text{m}^2$ について知り、 $\text{m}^2$ を使って面積を表すことができる。	・ $1\text{m}^2$ の理解 《平方メートル( $\text{m}^2$ )、 $1\text{m}^2$ 》	(知技)面積の単位 $\text{m}^2$ の意味を理解し、辺の長さが $\text{m}$ で表された長方形や正方形の面積を求めることができる。《発言・ノート》
	6	11	○長さの単位が異なる場合の長方形の面積を求めることができる。 ○ $\text{m}^2$ と $\text{cm}^2$ の単位間の関係を理解する。	・ $\text{m}^2$ と $\text{cm}^2$ の関係	(思判表)面積を求めるには長さの単位をそろえる必要があることに気づいている。《発言・ノート》 (知技) $\text{m}$ と $\text{cm}$ の関係をもとに、 $\text{m}^2$ と $\text{cm}^2$ の関係を理解している。《観察・ノート》
	7	12	○ $1\text{m}^2$ の量感をとらえたり、いろいろなもののおよその面積を求めたりすることができる。	・ $1\text{m}^2$ の面積づくり (量感)	(態度) $1\text{m}^2$ の面積の量感を身につけ、生活や学習にいかそうとしている。《観察》 (思判表) $1\text{m}^2$ の量感をもとに、身のまわりの面積がどのくらいかを判断している。《観察・ノート》
	8	13	○面積の単位 $\text{km}^2$ について知り、 $\text{km}^2$ を使って面積を表すことができる。 ○ $\text{km}^2$ と $\text{m}^2$ の単位間の関係を理解する。	・ $1\text{km}^2$ の理解 《平方キロメートル( $\text{km}^2$ )、 $\text{km}^2$ 》 ・ $\text{km}^2$ と $\text{m}^2$ の関係	(知技)面積の単位 $\text{km}^2$ の意味を理解し、辺の長さが $\text{km}$ で表された長方形や正方形の面積を求めることができる。《発言・ノート》 (知技) $\text{km}$ と $\text{m}$ の関係をもとに、 $\text{km}^2$ と $\text{m}^2$ の関係を理解している。《観察・ノート》

④面積の単位の関係	9	14～15	○面積の単位 $a$ 、 $ha$ について知り、 $a$ 、 $ha$ を使って面積を表すことができる。 ○ $a$ 、 $ha$ と $m^2$ の単位間の関係を理解する。	・ $a$ と $ha$ の理解 《アール( $a$ )、 $1a$ 、ヘクタール( $ha$ )、 $1ha$ 》 ・長さと同面積の単位の関係	(知技)面積の単位 $a$ 、 $ha$ について理解している。《ノート》 (思判表)長さの単位の関係をもとに、面積の単位の関係を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	10	16～17	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

## 11 がい数とその計算

目 標		指導時数・時期
○身のまわりの数量の表し方について、目的に応じて概数で表されることがあることを理解し、その表し方を考えたり、概数で計算する仕方を説明したりすることを通して、概数の意味やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。		9時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬
評 価		
(知)・概数が用いられる場合や四捨五入について理解し、身のまわりの数量を概数で表したり、概数を使って四則計算の結果を見積もったりすることができる。 (思)・目的に応じて、概数の表し方を考えたり、概算の仕方を工夫したりしている。 (態)・概数や概算に進んで関わり、ふり返りを通して概数に表したり概算したりすることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。		

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	116	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「一万をこえる数」	
① がい数の表し方	1	18	○およその数で表された場面から概数の意味を知り、単元の課題をつかむ。 ○概数の表し方について調べ、あるきまった位を四捨五入にする方法を理解する。	・入場者数による概数の学習の動機づけ、概数の定義 《約、がい数》 ・切り捨て、切り上げ、四捨五入の定義とその適用 《切り捨て、切り上げ、四捨五入》	(態度)概数が用いられる場合に関心をもち、概数の表し方について考えようとしている。《観察・発言》 (知技)切り捨てと切り上げ、それを組み合わせた四捨五入の仕方を理解している。《観察・ノート》
	2	21	○桁数の違う数を概数にするときには、上から1、2桁の概数にすることを理解する。	・ある位までの概数、上から○桁の概数	(思判表)四捨五入している位が違うことに気づき、どのように概数にしたかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)上から何桁かの概数にする仕方を理解し、概数で表すことができる。《ノート》
	3	22	○四捨五入の仕方をもとに概数の表す範囲を考え、「以上」「未満」「以下」を使って数の範囲を表すことができる。	・概数の表す範囲、以上、未満、以下の定義 《以上、未満、以下》	(思判表)四捨五入の仕方をもとに、概数から実際の数量の範囲を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)以上、未満、以下の意味を理解し、それらの用語を使って数の範囲を表すことができる。《ノート》
	4	23	○1万をこえる数量を棒グラフに表すのに、概数を用いることができる。 ○身のまわりから、使われている概数を見つける。	・概数を棒グラフに表す ・算数探しの活動	(思判表)棒グラフに表すという目的にあわせて、概数にする仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (態度)概数のよさに気づき、身のまわりで概数がどのように使われているかを調べようとしている。《観察》
	② がい数の計算	5	24～25	○和や差を求める概算の仕方を理解し、見積もることができる。	・加減の概算の仕方(和や差の見積もり) 《がい算》
	6	26	○積を求める概算の仕方を理解し、見積もることができる。	・乗法の概算の仕方(積の見積もり) 《見積もり》	(態度)和や差の場合と同じように、簡単に積を見積もる方法を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)積を概算で見積もることができる。《ノート》
	7	27	○積の概算の仕方をもとに商を求める概算の仕方を考え、見積もることができる。	・除法の概算の仕方(商の見積もり)	(思判表)積の概算の仕方をもとに、商を簡単に見積もる方法を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)商を概算で見積もることができる。《ノート》
	8	28	○買えるか買えないかを、切り捨て・切り上げを使って考えることができる。	・切り捨て・切り上げを使った概算と結果の判断	(思判表)切り捨て・切り上げを使って見積もると、買えるか買えないかがはっきりとわかることに気づいている。《ノート・発言》
学びのまとめ	9	29	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

思 見方・考え方を深めよう(1)「わすれてもだいじょうぶ」

目 標			指導時数・時期		
○ 文章題において、問題場面を図に表して解法を考えることを通して、順にもどす考え方をを使って3要素2段階の逆思考の問題を解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。			2時間 2学期制：11月中旬 3学期制：11月中旬		
評 価					
(知)・3要素2段階の問題を図に整理することができる。 (思)・図をもとに考え、順にもどして3要素2段階の逆思考の問題を解決している。 (態)・3要素2段階の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して問題場面を図に整理して考えることよき気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	30	○3要素2段階(×、±)の問題を、「順にもどして」考える思考法で解決する。	・順にもどして解く3要素2段階(×、±)の問題	(態度)問題場面を図に整理して考えようとしている。《観察・ノート》 (思判表)順にもどして考えて、加減や乗除の相互関係を利用して問題を解くことができる。《発言・ノート》
	2	31	○3要素2段階(÷、±)の問題を、「順にもどして」考える思考法で解決する。	・順にもどして解く3要素2段階(÷、±)の問題	(知技)問題場面を図に整理することができる。《観察・ノート》 (思判表)順にもどして考えて、加減や乗除の相互関係を利用して問題を解くことができる。《発言・ノート》

12 小数のかけ算とわり算

目 標			指導時数・時期		
○ 小数と整数のかけ算やわり算について、整数の計算をもとにしてその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、(小数)×(整数)、(小数)÷(整数)の計算や筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			16時間 2学期制：11月中旬～12月中旬 3学期制：11月中旬～12月中旬		
評 価					
(知)・(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算の意味やその仕方を理解し、(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算ができる。 (思)・(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算の意味やその仕方について、整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりなどをもとにしたりして考えている。 (態)・(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算に進んで関わり、ふり返りを通して整数の場合や小数の仕組みをもとにして考えることよき気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	116	○既習事項の理解を確かめる。	・3、4年「小数」 ・4年「一億をこえる数」 ・4年「式と計算の順じよ」	
(課題設定)	1	32	○(小数)×(整数)の式を立て、単元の課題をつかむ。	・(小数)×(整数)の学習の動機づけ	(態度)整数の場合との違いや似ているところに着目し、(小数)×(整数)の式や計算について考えようとしている。《発言・観察》
① 小数のかけ算		33	○乗法九九の範囲の(純小数)×(整数)の計算の仕方を考えることができる。(小数第1位)	・(1/10の位までの小数)×(1位数)の計算	(知技)(純小数)×(整数)の計算をすることができる。《ノート》
	2	34	○乗法九九の範囲の(純小数)×(整数)の計算の仕方を考えることができる。(小数第2位)	・(1/100の位までの小数)×(1位数)の計算	(思判表)整数の計算に帰着すればよいことに気づき、(小数)×(整数)の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	3	35	○(小数)×(1位数)の計算の仕方を考え、計算することができる。 ○整数の筆算の仕方をもとに(小数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)×(1位数)の筆算(末尾の0の処理を含む)	(態度)整数のかけ算の筆算をもとにして、(小数)×(1位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)×(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	4	36	○(小数)×(2位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数)×(2位数)の筆算	(思判表)乗数が1位数のときをもとに、(小数)×(2位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)(小数)×(2位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
●練習	5	37	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
(課題設定)	6	38～39	○(小数)÷(整数)の式を立て、単元の課題をつかむ。	・(小数)÷(整数)の学習の動機づけ	(態度)整数の場合との違いや似ているところに着目し、(小数)÷(整数)の式や計算について考えようとしている。《発言・観察》
② 小数のわり算			○乗法九九の範囲の(小数)÷(整数)の計算の仕方を考えることができる。	・(小数)÷(整数)の計算の意味とその仕方	(知技)(小数)÷(整数)の計算をすることができる。《ノート》

	7	40	○被除数を整数にするだけではわからない $2 \div 4$ や $0.2 \div 5$ のような場合の計算の仕方を考え、計算することができる。	・商の位が除数の位より小さくなる場合の計算の仕方	(思判表)被除数を除数でわられるようにする方法を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	8	41	○整数の筆算の仕方をもとに(小数) $\div$ (1位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数) $\div$ (1位数)の筆算 (商が1より大きい場合)	(態度)整数のわり算の筆算をもとにして、(小数) $\div$ (1位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)(小数) $\div$ (1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	9	42	○(小数) $\div$ (1位数)で、商が純小数になる場合や商に空位の0がある場合の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数) $\div$ (1位数)の筆算 (商が1より小さい場合)	(知技)商が純小数になる場合や空位の0がある場合の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	10	43	○(小数) $\div$ (2位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	・(小数) $\div$ (2位数)の筆算	(思判表)除数が1位数のときをもとに、(小数) $\div$ (2位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)(小数) $\div$ (2位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	11	44	○(小数) $\div$ (整数)で、商を一の位まで求めて、余りがある場合の計算を考える。	・(小数) $\div$ (整数)で、余りを求める	(思判表)除数と余りの大小関係をもとに、余りの小数点の位置を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)(小数) $\div$ (整数)で、商と余りを正しく求めることができる。《ノート》
	12	45	○(整数、小数) $\div$ (1、2位数)でわり進む場合の筆算の仕方を理解する。	・わり進む場合の筆算	(知技)わり進む場合の筆算の仕方を理解し、正しく計算することができる。《ノート》
	13	46	○(整数、小数) $\div$ (1、2位数)で、商を適当な位までの概数で表す筆算の仕方を理解する。	・商を概数で表す場合の筆算	(思判表) $2 \div 3$ などのわり算は、どれだけわり進んでもわり切れないことに気づいている。《発言・観察》 (知技)わり進んでわり切れないときの商を四捨五入して概数で表すことができる。《ノート》
●練習	14	47	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③ 小数倍	15	48～49	○何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。	・小数倍の意味 《小数倍》	(思判表)図や式を使って、2つの数量の割合を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)割合を小数で求めることができる。《ノート》 (態度)割合を表すときにも小数が使えるよさに気づき、学習にいかそうとしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	16	50～51	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

### 活 どんな計算になるのかな「明石海峡大橋のひみつ」

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●どんな計算になるのかな	1	52～53	○根拠にもとづいて、整数の四則計算の演算決定をすることができる。	・整数の四則計算の演算決定問題	(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》

### 思 だれでしょう

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
思 だれでしょう	1	54～55	○示された条件を表に整理し、順序よく推論して問題を解くことができる。	・条件に合うものを見つける問題	(態度)条件を表に整理し、順序立てて考えていこうとしている。《ノート・発言》 (思判表)表をもとに、あてはまる場合を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》

### \* ふく習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	56～57	○既習事項の確認と持続	・復習	

13 調べ方と整理のしかた					
目 標					指導時数・時期
○ 身のまわりの事象について、二次元の表を用いたデータの分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともに、その方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬
評 価					
(知) ・身のまわりの事象について、二次元の表を用いて分類・整理する仕方を理解し、表をよんだりつくったりすることができる。					
(思) ・目的に応じて、表の項目を適切に判断したり、表から事象の特徴をよみとったりしている。					
(態) ・身のまわりの事象を分類・整理することに進んで関わり、ふり返りを通して目的にあわせて表をつくることの必要性やそのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	177	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「表とグラフ」	
(課題設定)	1	58～60 61	○けが調べから、2つの事柄について整理した表を用いて解決するという単元の課題をつかむ。 ○「1週間のけが調べ」の資料をもとに整理した二次元の表のよみ方を理解する。	・けがの調査において、2つの観点で調べることについての動機づけ ・二次元の表のよみ方	(態度)2つの事柄について整理する必要性に気づき、わかりやすく表す方法を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)2つの観点で分類・整理した表のよみ方を理解している。《発言・ノート》
	2	62～63	○二次元の表のかき方を理解し、落ちや重なりがないように二次元の表をかく。	・2つの観点について調べて二次元の表にまとめる、表のかき方	(知技)2つの観点で分類・整理した表をつくることができる。《ノート・観察》
	3	64～65	○二次元の表を考察し、そこから得られたことを、自分たちの生活にいかそうとする。	・表をよみ取る ・仲間に分けて考える問題（二次元の表を使って考える問題）	(思判表)二次元の表をよみ取り、資料の特徴や傾向を考えたり話し合ったりしている。《観察・発言》 (態度)目的にあわせて表をつくることのよさに気づき、学習や生活にいかそうとしている。《観察・発言》
学びのまとめ	4	66～67	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

思 見方・考え方を深めよう(2)「どれにしようかな」					
目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、情報を二次元の表に分類・整理して解法を考えることを通して、2つの観点の組み合わせを考えて問題を解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					1時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬
評 価					
(知) ・2つの観点からの情報を二次元の表で整理できることを知っている。					
(思) ・2つの観点からの情報を二次元の表に整理している。					
(態) ・いろいろな情報を、二次元の表などに整理して、考えようとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	1	68～69	○問題に示された条件を、表を用いて2つの観点から分類・整理して解決する。	・仲間に分けて考える問題（二次元の表を使って考える問題）	(態度)示された条件を二次元の表に分類・整理すればよいことに気づき、活用しようとしている。《ノート・発言》 (知技)示された条件を二次元の表に分類・整理することができる。《ノート》 (思判表)二次元の表の仕組みをもとに、表を完成させて問題を解決している。《ノート・発言》

14 分 数					
目 標					指導時数・時期
○ 分数について、仮分数や帯分数について理解し、分数の大きさを数直線に表したり、分数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					7時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬
評 価					
(知) ・仮分数や帯分数の意味を理解し、仮分数を帯分数に直したり帯分数を仮分数に直したりすることができる。また、それらの大小比較や加減計算をすることができる。					
(思) ・単位分数の何個分かに着目し、分数の表し方や同分母分数の加減計算の仕方を考えている。					
(態) ・分数に進んで関わり、ふり返りを通して単位分数の何個分かに着目することのよさや分数で表すことの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	117	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「分数」	

(課題設定)	1	70	○単位とする大きさの分数で測定することを通して、1より大きい分数について調べていくという単元の課題をつかむ。 ○単位分数のいくつ分になるか調べ、真分数や仮分数について理解する。	・単位分数の何個分をもとにした1以上の分数の動機づけ ・分数の分類、真分数と仮分数の定義 《真分数、仮分数》	(態度)1より大きい分数に関心を持ち、調べていこうとしている。《観察・発言》 (知技)真分数と仮分数の意味を理解している。《ノート》
①1より大きい分数の表し方		71			
	2	72~73	○帯分数について知り、分子を分母でわった商と余りに着目して、仮分数を整数や帯分数に直す仕方を考える。	・帯分数の定義、仮分数と帯分数の関係 《帯分数》 ・仮分数から整数、帯分数への変形	(思判表)仮分数を整数と真分数に分解する仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)帯分数の意味を理解し、仮分数を整数や帯分数に直すことができる。《ノート》
	3	74	○帯分数を仮分数に直す仕方を考え、帯分数を仮分数に直したり、分母の等しい帯分数や仮分数の大小比較をしたりすることができる。	・帯分数から仮分数への変形 ・仮分数と整数、帯分数との大小比較	(思判表)帯分数を仮分数に直す仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)帯分数を仮分数に直すことができる。《ノート》
②分数のたし算・ひき算	4	75	○同分母分数の加法(和が1より大)や減法(被減数が1より大)の計算をすることができる。	・同分母分数の加法の立式と計算の仕方、同分母分数の減法の立式と計算の仕方	(態度)既習の分数の加減計算の仕方をもとに、単位分数の何個分かに着目して1より大きい分数の加減計算の仕方を考えようとしている。《発言・ノート》 (知技)同分母分数の加法(和が1より大)や減法(被減数が1より大)の計算ができる。《ノート》
	5	76	○帯分数を含む同分母分数の加法や減法の仕方を考え、計算することができる。	・整数、帯分数の入った加法の計算、整数、帯分数の入った減法の計算	(思判表)帯分数を仮分数に直したり、帯分数を整数と真分数に分解したりして加減計算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
③等しい分数	6	77	○分母や分子が違う分数で、大きさの等しいものがあることを、数直線を使って理解する。	・等しい分数の理解	(思判表)1/2と2/4のように、分数には表し方が違っても大きさの等しいものがあることに気づいている。《観察・発言》 (知技)数直線を見て、大きさの等しい分数を見つけることができる。《観察・ノート》
学びのまとめ	7	78~79	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

\* ふく習

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	80~81	○既習事項の確認と持続	・復習	

15 変わり方

目 標						指導時数・時期
○ 伴って変わる2つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して、表やグラフ、式を用いた関数的な見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。						6時間 2学期制：2月上旬～2月中旬 3学期制：2月上旬～2月中旬
評 価						
(知)・伴って変わる2つの数量の関係を、表やグラフに整理したり、○や△の式に表したりすることができる。						
(思)・伴って変わる2つの数量の関係を表に整理して、変化や関係の特徴を考えている。						
(態)・伴って変わる2つの数量の関係に進んで関わり、ふり返りを通して表やグラフに数量の関係を整理したり式に表したりすることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。						
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準	
じゅんび	—	117	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「□を使った式」		
(課題設定)	1	82	○長方形づくりを通して、伴って変わる2つの数量の関係について調べていくという単元の課題をつかむ。	・長方形をつくるストローの縦と横の本数の関係を、実際に並べてみて調べる	(態度)長方形づくりを通して縦と横の本数の組にきまりがあることに気づき、それを順序よく表に整理して調べようとしている。《観察・発言》	
		83	○伴って変わる2つの数量の関係を調べる表のかき方やよみ方を理解する。	・並べたストローの2量の関係(縦と横の本数)の変化の様子を表にかいて調べる	(知技)伴って変わる2つの数量の関係を、順序よく表に整理して調べることができる。《ノート・発言》	
	2	84	○伴って変わる2つの数量の関係を、○や△を使った式に表すことができる。	・2量の関係を表にかいて変化の様子を調べて式に表す(和一定)	(知技)伴って変わる2つの数量の関係を、○や△を使った式に表すことができる。《ノート》	



	3	85	○伴って変わる 2 つの数量の関係を表にかいて調べたり、○や△を使った式に表して調べたりする。	・2 量の関係を表にかいて変化の様子を調べて式に表す (商一定)	(思判表)伴って変わる 2 つの数量の関係を、図、表、式を使って考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
	4	86	○変わり方のきまりを表にかいてみつけ、きまりを使って問題を解決する。	・2 量の関係を表にかいて変化の様子を調べ、きまりを使って問題を解決する ・2 量の関係を表にかいて変化の様子を調べて式に表す (一次関数)	(態度)数量の関係を表に整理するよさに気づき、テーブルと人数を表に整理してきまりを見いだそうとしている。《ノート・発言》 (知技)変わり方のきまりを使って、あてはまる場合を求めることができる。《ノート》
	5	87	○水そうの水の量と全体の重さの関係を、折れ線グラフに表したりよんだりする。	・2 量の関係を折れ線グラフにかいて変化の様子を調べる	(知技)水そうの水の量と全体の重さの関係を、折れ線グラフにかくことができる。《ノート・観察》 (思判表)折れ線グラフから変化の様子をとらえ、それをもとに解決の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
学びのまとめ	6	88	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

16 直方体と立方体					
目 標				指導時数・時期	
○ 直方体と立方体について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり展開図や見取図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間 2 学期制：2 月中旬～3 月上旬 3 学期制：2 月中旬～3 月上旬	
評 価					
(知)・直方体や立方体の意味やその特徴について理解し、展開図・見取図をかいたり、直線や平面の平行・垂直の関係を調べたりすることができる。また、平面や空間における位置の表し方についても理解している。					
(思)・直方体や立方体の構成要素やそれらの位置関係に着目し、直方体や立方体の特徴や展開図・見取図のかき方を考えている。					
(態)・直方体や立方体の考察、位置の表し方に進んで関わり、ふり返りを通して立体図形の構成要素やその位置関係に着目することや位置を数値で表すことよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	117	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「はこの形」 ・4 年「垂直・平行と四角形」	
(課題設定)	1	89	○面から箱をつくることを通して、箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・いくつかの面から立体図形を作成することによる、立体図形の性質を考える動機づけ	(態度)面の形に着目して、どんな箱ができるかを考えようとしている。《観察・発言》
① 直方体と立方体		90	○直方体や立方体の意味を理解する。	・面構成による箱の作成、直方体と立方体の定義 ・直方体や立方体の構成要素 《直方体、立方体、平面》	(知技)直方体と立方体の意味を理解し、面、辺、頂点の数を調べることができる。《発言・ノート》
	2	91～92	○展開図のかき方を知り、直方体の展開図をかくことができる。	・直方体の展開図と作成 《てん開図》	(思判表)面のつながりに着目して直方体の展開図のかき方を考えている。《観察・ノート》 (知技)直方体の展開図をかいたり、組み立てたときに重なる辺や頂点を見つれたりすることができる。《ノート・発言》
	3	93	○立方体の展開図をかく。	・立方体の展開図	(態度)立方体の展開図にはいろいろなものがあることに気づき、関心を持って取り組んでいる。《観察・ノート》 (知技)立方体の展開図をかいたり、組み立てたときに重なる辺や頂点を見つれたりすることができる。《ノート・発言》
② 面や辺の平行と垂直	4	94	○直方体の面と面の平行や垂直の関係を理解する。	・面と面の平行や垂直 《(面と面の)平行、(面と面の)垂直》	(知技)面と面の平行や垂直の関係を実感的に理解している。《観察・発言》 (態度)面と面の関係に着目することよさに気づいている。《観察》
	5	95	○直方体の辺と辺の平行や垂直の関係を理解する。	・辺と辺の平行や垂直	(知技)辺と辺の平行や垂直の関係を実感的に理解している。《観察・発言》 (態度)辺と辺の関係に着目することよさに気づいている。《観察》
	6	96	○直方体の面と辺の平行や垂直の関係を理解する。	・面と辺の平行や垂直	(知技)面と辺の平行や垂直の関係を実感的に理解している。《観察・発言》 (態度)面と辺の関係に着目することの意義に気づいている。《観察》

	7	97～98	○見取図のかき方を知り、直方体や立方体の見取図をかくことができる。	・直方体や立方体の見取図 《見取図》	(知技)直方体や立方体の見取図をかくことができる。《ノート》
●練習	8	99	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③位置の表し方	9	100～101	○平面上にあるものの位置の表し方を理解する。	・二次元座標を使った位置の表し方	(思判表)ある場所を起点として、平面上の位置の表し方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)平面上の位置を、2つの数の組で表すことができる。《ノート》 (態度)位置を数値で表すことによるよさ気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察・ノート》
	10	102	○空間にあるものの位置の表し方を理解する。	・三次元座標を使った位置の表し方 《空間》	(知技)空間上の位置を、3つの数の組で表すことができる。《ノート》
学びのまとめ	11	103	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

### わくわくプログラミング

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●わくわくプログラミング	1	104～105	○忍者を動かすプログラムをつくる活動を通して、簡単なプログラミングの仕方を理解する。	・くり返しによる累加・累乗のプログラミング	(思判表)増え方のきまりをプログラムするために、命令の組み合わせ方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)2ずつ増えるときと2倍ずつ増えるときで、増え方が大きく違うことに気づいている。《発言・ノート》

### わくわく SDGs 「ごみを減らそうプロジェクト」

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●わくわく SDGs	1	106～109	○ごみ問題について話し合い、与えられたデータから1人あたりのごみの量を求めることができる。 ○調べた結果から、ごみを減らすためにできることを話し合う。	・集めたデータを活用した問題の発見と解決	(知技)必要な情報を選択し、1人あたりのごみの量を計算で求めることができる。《発言・ノート》 (態度)友だちと相談しながら、ごみの量を減らすためにできることを考えようとしている。《ノート・発言》 。《ノート・発言》

### \* もうすぐ5年生

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	110～111	○4年生の学習内容の確認と持続	・復習	
	2	112～113			
	3	114			

### ★ 学びのサポート

ページ	学習内容	指導時数
116～117	・じゅんぴ	
118～127	・もっと練習	
130～131	・学びをつなげよう	

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。